

# ふるさとの鼓動 北に生きる心 むすんで

# こぶし

第119号 2005年8月25日発行  
発行責任者：横井正人 編集：機関紙局  
特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座 北海道函館市陣川町 122-172  
TEL/FAX: 0138-54-2859 年4回発行  
E-mail: kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kobusiza

## 主な内容

- (1) 40周年祝賀会
- (2) 國田退座挨拶
- (3) 6～8月活動
- (4) お知らせ

## 創立四十周年祝賀会開かれる

—更なる歩み—

時代の荒海へ、41年目の船出—

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。さて、機関紙「こぶし」第百十九号は、創立四十周年の記念事業の報告を特集いたしました。40年の歩みと作品を本にした「北に、生きる心むすんで」祝賀会に合わせ出版することができ、安堵しております。では、祝賀会の様子からお伝えします。

さる、七月三十日(土)午後二時から、こぶし座後援会の主催による「こぶし座創立四十周年祝賀会」が、函館国際ホテル・鳳凰の間に於いて行われました。当日は天候にも恵まれ、百四十名を越える出席者で盛り上がる祝賀会となりました。

紹介と自身の退座の報告を行い、創立時から活動の牽引役だった國田の話には、出席者からの惜しみないねぎらいと後を引き継ぐ座員たちへの激励の拍手が大きく湧き起こりました。祝辞は、函館市教育長・金山正智さんが出席できず、生涯学習課長が代読くださいました。金山さんは、沖縄公演の際の道・財団助成事業への熱意ある推薦書をくださった方であり、それだけに、社会的使命を担うNPO法人として一層の精進が求められているのだと身の引き締まる思いでした。



次に、祝電・メッセージが披露された後、団体の紹介が行われ、テーブルスピーチへと移りました。最初に、出前落語でお馴染みの北の嘶家・東家夢助師匠、次にトロイカ合唱団の宮腰さん、そして札幌・民舞サークル結の山口さんと続き、檜山座の名入り半纏を颯爽と羽織り登場した西信乃さんが檜山教職員組合の先生たちの熱き想いを伝えてくれ、その後、こぶし座サークルどんどどんのとびきり元気な長尾洋子さんがスピーチを行いました。

横浜市の元小学校長の横濱さんご夫妻は、公演後、子ども達が校内を踊り回る状況がしばらく続いたこと、他校の学校長が「気になっていたら子ども達が感動してノリにノッた状態だった」と伝えてきたことを話し、座への想いを『命のバトン』という詩に託して詠んでくれました。北星学園大学文学部教授の谷暎子さんは、ご自身の教子である女性座員の成長ぶりを喜びながら座への期待を話し、(株)アイワード専務取締役の奥山敏康さんは、本の完成までの苦労話を交えて國田との本づくりの日々を熱っぽく語りました。最後は、座員・田畑悟志の妻のゆかりさんです。留守が

祝宴に入ってから、座員を囲んで思い出話をする方々や早速手にした本を見開き隣席の方と談笑するなど、あちこちで弾んだ会話が交わされ、公演部による祝いの舞「沖縄古典舞踊の「四つ竹踊り」も祝賀会に華を添えました。この後、司会者からの突然の提案で國田夫妻へ花束贈呈が行われましたが、受取りに出た二人の場所がたまたま金屏風の前となり、さながら結婚式を思わせる一コマに会場中が大喝采でした。

次に、祝電・メッセージが披露された後、団体の紹介が行われ、テーブルスピーチへと移りました。最初に、出前落語でお馴染みの北の嘶家・東家夢助師匠、次にトロイカ合唱団の宮腰さん、そして札幌・民舞サークル結の山口さんと続き、檜山座の名入り半纏を颯爽と羽織り登場した西信乃さんが檜山教職員組合の先生たちの熱き想いを伝えてくれ、その後、こぶし座サークルどんどどんのとびきり元気な長尾洋子さんがスピーチを行いました。

参加した一人ひとり座の歩みとそれぞれの人生を重ね合わせ、歴史を共につくりあげてきたという想いが通い合う意義ある交流の場となった祝賀会でした。

この祝賀会を主催してくれた、後援会会長の三浦さんと事務局長の梶原さん始め役員の方々、そしてお忙しいなかご来場くださった皆さんと数多くの支持者の方々に感謝して、更なる歩みを始めていこうと思っております。『その灯を消すな』を合い言葉に：

創立四十周年の祝賀会にあたり、沢山の方々からメッセージをいただきました。紙面の都合で、全てを紹介することができませんが、その一部を掲載させていただきます。お寄せくださった皆さんに心より、お礼申し上げます。

ありがとうございます。

こぶし座創立40周年おめでとう、ございます。

矢白別平和盆おどりとは起点がほぼ同じと思いますが、当初は盆おどりの催しをもち上げるために街頭宣伝などでめざましい活躍をされ、大きなはげましをうけた記憶があります。その後もしばしば参加を賜りありがとうございます。

加を賜りありがとうございます。いつかどこかであのような公演がつけられていると思うと本当に心やすらぐ力強さを感じております。

いつまでも希望の星でありますよう祈っております。

別海町 川瀬 汎二

創立40周年、ほんとうにお疲れさまです。それに牽引力だった国田さんの退座、ほんとうにご苦労さまでした。同じ時期に国田さんは「こぶし座」、私は「劇団さつぽろ」を創設し、北海道の文化運動の中核として励んできたことを、今、しみじみと思い出しております。私は少し早く若い世代にバトンタッチしていただきますが、それだけに国田さんの胸の内をある感慨をもって

あつという間に40年がたつてしまいました。こぶし座創立の頃、国さん、令子ちゃん、真澄ちゃん、安達君と一緒に道内を歩き回ったことがまるで昨日のこのように思い出されます。こぶし座のみなさんには本当にいろいろお世話になってきました。

10周年を迎えたころも、20周年を迎えたころも、いま思えばずいぶん厳しい時代でしたが、みんな生き生きとしていましたね。そして三十五周年の時もう完全に第二世代の皆さんが主力になって活躍される時代になっており、こぶし座はいよいよ21世紀の創造集団になったのだと実感しました。

二十世紀のわたしたちに出来なかつた夢が、これからのあなた方によって実現されることを期待しています。これからも、たとえ小さなことでもこぶし座の役に立つことがあれば声をかけてください。

多くのこぶし座支援者同様、わたしにとってもこぶし座は人生の一部なのです。NPO現代座 木村 快

札幌市 鈴木喜三夫・演出家

余りにも歴史を忘れ文化を忘れる傾向の強さに心を痛めている私にとって、こぶし座の40周年は力強い応援歌です。おめでとございます。

函館市 山下 悟

本当に長い間お疲れ様！40周年と言う通過点にさしかかったんですね！

私が「こぶし座」を知り、30年になる事に今更ながら（爺になったなあ）驚いています。

会社も集団も基本になるのは「人」ですね、人と人との心を繋ぐ活躍を今後も期待します。

千葉県 齊藤 和彦

こぶし座創立40周年おめでとう、ございます。親が子を殺し、子が親を殺す。おさな子誘拐、大事故、社会の腐敗。世はまさに世紀末です。

こぶし座の公演活動に小学校・保育園・幼稚園が多数ふくまれていることはとくに重要です。こぶし座によって育てられたこれらの子供たちがおとなになるころには、とくに人情ゆたかな北海道の地で新しい社会の芽が生まれることでしょう。

座の皆さんのご活躍と健康を心から期待してやみませ

ん。

東京都 高倉 太郎

こぶし座創立40周年をむかえ、後援会員の一人として心からお喜び申し上げます。

2002年4月、歌舞劇「南北の塔」が沖縄県下で公演された時の感動を思いおこしつつ、座員一同が一つの公演に打ち込む情熱、その集中力のすごさが、座40年の今日を築いてきたんだなということ

を、今つくづくと感じ入っているしだいです。

21世紀のさらなる飛躍を座員一同のご健勝と共に祈念しメッセージと致します。

沖縄県 根保 幸栄

創立以来、代表者として運営の任にあたりながら、仮面劇「江差の繁次郎」、舞踊劇「おかめ・ひよつと」(子宝三番叟)、歌舞劇「南北の塔」などの作品を創り演出してきた國田修司が、このほど退座いたしました。

また、ご報告が遅くなりましたが、これまで多くの作品の振付や音楽を担当してきた下條真澄さんは、囑託としての期間を終え、NPO現代座の社員として新たな創造を求めて歩んでおります。お二人ともこれからもお元気で活躍されますよう、座員一同願っております。

ありがとうございます！ 四十年

國田 修司

このたび、七月末日をもって、四十年に及ぶ座活動に終止符を打ち、退座いたしました。

思えば、生活まるごと民族芸能の仕事に打ち込む道を第二の人生として選択したのは、三十一歳という常識的には遅すぎる年齢でした。私も私なら、子ども二人を抱えて私の無謀な考えに賛成した妻も妻です。

その子どもたちも、今ではそれぞれ母親となり子育て中で、やはり四十年という年月の長さを感じさせますが、それも、四十年を経たいま思うことで、これまでは長いとか短いとか全然感じたことはありませんでした。ただ、今やらなければならぬことに必死で向かうことしか考えなかつた毎日でしたから……。

今年創立四十周年にあたり、これまでの歩みを綴り、その時々々の作品をも記録した『北に、生きる心むすんで』を出

版することになり、私が編集と執筆にあたり、出版まで約四か月を費やしました。その間、毎日、私の記憶にあるすべてのことを思いおこし、また記憶にないものは資料や活動記録の助けを借りながらまとめ終えて、しみじみと感じたことは、私自身の頑張りなんかとるに足らないほどで、どれだけ多くのかたがたに手を引つ張られ、背中を押され続けてもらったことか、ということでした。

私は挫折することなく自分の選んだ人生を貫徹したことに誇りと喜びをもっておりますが、それも皆さんの応援によつてはじめて為し得たもの思いで、あらためて感謝しております。

退座後も一社員として座を支援していきますが、残る人生、これまでと同様、妻と二人三脚で支え合いながら暮らしてゆくつもりです。

長い間ありがとうございます！ 皆さんお元気で！

# 六〇八月活動より

## 東北の祭り見学

八月三日 盛岡

四日 青森

田畑 悟志

芸能の宝庫といわれる東北へ祭りを見に行き、思う存分に堪能してきました。

三日は盛岡で行われた『盛岡さんさ踊り』の見学。主には昨年からお世話になっていゝる三本柳さんさ踊り保存会の方々の踊りを中心に、駅前広場や文化ホール、パレードと会場が変わる都度追いかけ、この目に焼き付けんとばかりに見学してきました。



さんさ踊りパレード

花笠をかぶり浴衣姿のいでたちからは想像し得ない激しさで力強さ！そしてたくましさ。しやがみ込んで一気に立ち上がる、全身を使って両手いっぱい天を仰ぐ、そういった様子からは、子ども達や畑の作物がすすくと伸びていくように、天に願いが届いて行きますように、という当時の人たちの切実な思いが現れているように感じました。

様々な保存会や団体の踊りも見学し、一口に「さんさ踊り」といっても保存会によって踊りやお囃子それぞれに違いがあるということも現地に行つて初めて知りましたが、いずれの保存会も素材でいて愛情が溢れんばかりの踊りです。

私も舞台に立つ者として、その方たちから伝わってくる心根を大切にしていきたい、そう強く思いました。

四日は青森ねぶた祭りの見学。力強いお囃子は見上げるように大きい山車をさらに勇壮に引き立てているように感じます。誇りに満ちあふれた囃し手の表情、大きな山車がぐるりと回るたびに観客から拍手喝采が！

お囃子の音を懐かしみ、この日のために多くの人たちが故郷へ帰つて来るのだから。お祭りが心のよりどころとして、明日への活力として存在しているのを実感しました。

また、日中の空き時間には三内丸山遺跡の見学ができ、ボランティアガイドの方の丁寧な説明に耳をかたむけながら、五千年も前の人間の営みに思いを馳せます。

道外の祭りを見る機会が少なだけに本物を見て、感じて来ることができた貴重な体験となりました。

## 姥神大神宮渡御祭

八月十日

村田さつき

かつて「江差の5月は江戸にもない」と言われるほどニシン漁で賑わった道南の江差町へ、姥神大神宮渡御祭を見に行つてきました。

「この山車のお囃子は哀調があるでしょう。」とは、ただ一つ船型をした「松寶丸」という山車の保存会長さんの言葉です。山車について歩きながら伺った話は、全て録音しておいて後からじっくり聞

## 講座開催

第19回

函館夏の太鼓・笛講座

7月23日～24日

会場 こぶし座会館

受講者

太鼓 12名

笛 6名

今年には保育園の先生がとても多い参加でした。(15名)

太鼓講座は汗を流し手に豆をつくり、笛講座は酸欠と闘いながらの2日間でした

まとめの発表では緊張の中、一息一息心を込めて笛を吹き、自己を解放し身体ごと太鼓に向かつての演奏。

発表後は成し遂げた達成感でみんなの気持ちが一つになりました。

「笛の音が出るなんて夢みたい」「初めて太鼓をたたき楽しさを感じました」「日本



サントコドッコイ・ぶち合わせ太鼓

の誇るべき文化をこれからも大切に次の世代に繋げていけるよう現場で生かしていきたい」などの感想や、「笛講座は年に一度でなく継続して開催してほしい」と要望も寄せられました。

(横井ひとみ・記)

## 札幌講座

7月2日～3日

会場 東区

あゆみ幼稚園

受講者

太鼓 16名

笛 8名

昨年に続き二回目の札幌講座。案内のチラシを持って回りはじめたところ、次々と申し込みがあり、二週間ほどで定員となりました。

今年の参加は全員保育園、幼稚園の先生たちです。くたくたの体を気力で支え、講師のひと言ひと言になすく顔は真剣そのもの。

まとめの発表では、最後の力を振りしぼり気持ちを合わせ笛を吹き太鼓を叩ききりました。その姿は、二日間自分の持てる力で精一杯挑んだ充実感で満ち溢れていました。

(松岡智恵美・記)

良い文化を、そのために大人も触れて伝えていく役割を、と感じた」「自分自身の大きな財産になった」「祖先がニシン漁師、きつと体の血が太鼓が大好きなんだと思う」「次回太鼓を」等ひとりひとりが熱い思いを語り、みんなで感動を分かち合いながら講座を終了しました。



# 陣川あさひ町会 納涼祭り

八月七日

こぶし座が陣川町に移り住み今年で九年目。この地域の町内会・陣川あさひ町会では、機会あることに町会の催しに声をかけてくれますが、日程があわないこともしばしばです。そんな中、二年ぶりに納涼祭りに参加できました。

祭り会場では、数日前から舞台の設営や櫓を組みなど役員の方たちを中心に準備が進められて行きました。

祭り当日、こぶし座の役割は、太鼓や踊りの出し物と盆踊りの演奏、先導役です。

あさひ町会の子どもたちが通う神山小学校の五、六年生がよさこいソーランを踊り、そのあとを受けてこぶし座が演奏、踊った子どもたちも舞台前で応援してくれます。



提灯の下、楽しく盆踊り

いよいよ盆踊り。こぶし座が踊り出すと待つてましたとばかりに踊り出す人もいます。子どもたちに「一緒に踊ろう！」と声をかけると、はじめは恥ずかしそうに見ていた子どもたちも二周三周するうちにどんどん輪に加わってきました。見よう見まね、楽しそうについてきます。大人も子どもも一緒に大らかな踊りの輪ができました。

模擬店では、焼き鳥に氷水にと若いお父さんたちが大奮闘、その姿にあたたかいものがこみあげてきます。

地域のつながりの大切さ、祭りが果たす役割をあらためて実感しながら、私たちも地域づくりの一翼を担って行きたいと思いました。

来年は子どもたちと一緒に太鼓をたたきたいな、そんな夢が広がっています。

## こぶし座創立40周年記念出版

### 「北に、生きる心むすんで」

民族歌舞団こぶし座40年の歩みと作品

編著 國田修司

定価 1,800円 (税込み)

申し込み・問い合わせはこぶし座まで

皆さま是非ご購入ください！

☆また、多くの方に手に取って頂けるよう最寄りの図書館にもリクエストのご協力をお願いします！！

まもなく開催

## こぶし座応援バザー

主催 こぶし座後援会  
音鑑応援団

2005年

8/28日(日)

午前11時～

会場：はこだて音楽鑑賞協会  
2階ホール  
函館市高盛町22-7

★出店協力(予定)

湯川銀月 やきだんご、大福、べこもち  
岩崎水産 ぬかにしん

手作りパンも発売予定

創立40周年

新たな時代を共に歩もう！

## 座員大募集

演技部員 スタッフ 制作部員

※18歳以上の心身ともに健康な男女  
—経験は問いません—

※研修期間は1年間

(生活上の援助制度があります)

古川ミサヲさん(享年91歳)  
座員・古川喜美子のご母堂  
一月十八日逝去されました。  
計良芳枝さん(享年82歳)  
座員・計良徹のご母堂  
五月四日逝去されました。  
田畑利雄さん(享年61歳)  
座員・田畑悟志の御尊父  
六月二十六日逝去されました。  
いつもこぶし座のことを案じ、支えて下さいました。生前のご厚情に感謝し、座員一同心からご冥福をお祈りいたします。

### 【編集後記】

八月、日が射すと座の周りで待ちかねたように「ジージー」と泣き出す蝉の声。この夏の暑さと共に、戦後六十年を想う。

全国戦没者追悼式で遺族が語った。「悲しみを語り継ぎたい」「遺族の苦しみをもうだれにも味わってほしくない」。

新聞には戦時中の体験が数多く寄せられ、戦争を知らない世代の私に、どれほど戦争は恐ろしく悲惨なものだったか、軍国主義の教育で人間の心を奪い、どれほど多くの不幸を生み出したかを教えてくれている。

私の母は樺太(サハリン)の生まれ。小学生の時終戦となったが、その年母の弟が生まれためたに二年間樺太に家族が残った。幸い、無事に北海道に引き上げることが出来たが、その時の恐怖と生きるための苦労はたいへんなものだったそうだ。

八月八日郵政民営化法案が否決され、衆議院は解散、総選挙が行われることになった。

六十年間、日本に戦争をさせなかった憲法を守り、つらい歴史をくり返さないためにも、真に平和を求める代表を選びたいものだ。(マサト)